

2010年11月研究会

日 時：2010年11月10日（水）18:00～19:30

会 場：同志社大学 寒梅館3階 KMB319プレゼンテーションホール

講演者：末岡照啓（住友史料館副館長・新居浜市広瀬歴史記念館名誉館長）

演 題：「住友 400 年の企業生命力—家法を中心に」

司 会：末永國紀（同志社大学経済学部教授、事業承継学会理事）

主 催：一般社団法人事業承継学会

同志社大学技術・企業・国際競争力研究センター（ITEC）

講師プロフィール

末岡照啓（住友史料館副館長・新居浜市広瀬歴史記念館名誉館長）

1955 年生まれ。国学院大学文学部史学科卒業。著書『近世後期住友江戸両替店の創業と経営』（住友修史室 1987 年）、編訳『ラック著・別子鉦山目論見書』（住友史料館 2004・5 年）、共著『住友別子鉦山史』上・下・別巻（住友金属鉦山 1991 年）、『北垣国道日記 塵海』（思文閣出版 2010 年）『近世の環境と開発』（思文閣出版 2010 年）など、その他論文・講演多数。



事務局報告

本研究会は、事業承継学会と同志社大学 ITEC との共催という形で開催されました。

今回は、住友研究の第一人者である末岡照啓氏をお招きし、住友 400 年の歩みにおいて企業の遺伝子というべき創業以来の事業精神（家法・社是）がどのように住友各社に受け継がれ、住友グループ共有の理念になってきたかについてお話いただきました。講演においては、①技術開発の尊重とグローバルな事業、②事業は人なり、③公利公益の事業、④環境対策等(企業の CSR)、⑤国家百年の事業（企業の SRI（社会的責任投資））という 5 つの項目が挙げられ、具体的にどのような訓えがどのように事業精神になっていったかについて詳細な説明がなされました。そのうえで、最後に、アリー・デ・グース著『企業生命力』と野村進著『千年働いてきました 老舗大国日本』で挙げられた老舗企業のサステイナブル条件（①「環境に敏感なこと」、②「強い結束力」、③「寛大であること」、④「資金調達の保守性」、⑤「決して本業をはずれない」、⑥「本業からはずれない中で、社会のニーズに合わせていく」、⑦「危機は何十年かに一度襲ってくるもの、そこから逃げない…」、⑧「技術をムダにしない経営哲学」）に触れ、住友の事業精神においてはこれらすべての条件が備わっていることが明確に示されました。

なお、本研究会の出席者は 14 名でした。